

FREEDOM SPORTSTER

必要にして十分な性能を持つスポーツスター・ロードスターをこれ以上ないほどカスタムしたら、限られたオーナーだけが到達できる理想的なカフェレーサーが、真っ黒な衣をまとって降臨した。

文：田中宏亮 写真：真戸佑史



闇の衣をまとった 高性能ロードスター



◆ロードスターのアイデンティティである43mm倒立フロントフォークに合わせ、東京・練馬のチェリースカンパニーが専用のセパレートハンドルキットを製作した。



◆タンクやカウルといったボディパーツの変更により、イグニッションや配線の位置を変更することで、本来タンク前部右下にあるイグニッションが、なんとエンジン横に！



◆千葉・八街のカスタムショップ「シュアショット」が銀行スポーツスター向けに手がけたカーボン製フューエルタンクキットを換装。マシンのシルエットが激変した。



◆新しいオーリンズのリザーバータンク付き338mmブラックライン。これでも「まだ長さが足りない」と、ショック長を延長するエンドアイを加えてさらにハイポジションに。



◆カフェレーサーに欠かせないバックステップは大阪の「トランプサイクル」製モデルを。さらにミスミエンジニアリング製ディスクとフレンドボ製ブレーキキャリパーという高性能パーツも備える。



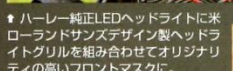
◆劣曲気を高めるスウェード製シートは、シュアショットが信頼を置くレザー工房STUDIO WOKINIによるもの。この裏側にはETCケースが内蔵されているのだ。



◆マフラーに選ばれたのは、トランプサイクル製フルチタニウム2in1エキゾースト。ブラックアウトすることでマシンの黒さをさらに際立たせる。



◆タンクとセットとなるシュアショットのカーボン製シートカウル。テールランプの両端にはウインカー機能も。ストラットもカットして大幅軽量化！



◆ハーレー純正LEDヘッドライトに米ローランドサンズデザイン製ヘッドライトグリルを組み合わせてオリジナルの白いフロントマスクに。



◆リア同様にブレーキングシステムのパージオンアップを施しつつ、フロントフェンダーもシュアショットのカーボン仕様へ換えるこだわりを見せる。



川端 達矢さん、1984年
本取材後にもカスタムしていく予定だそうです。主にコックピットまわりを変えていくというカーディーラー勤務のオーナー。

今後お目にかかることが
ないほど高められた一台
歴代スポーツスターを振り返って
も「これ以上はしないのでは」と思わ
される性能を有したモデル、ロード
スター。倒立フロントフォークにフロ
ント19 / リヤ18インチというホイール
が誇るスポーツライクなポジション、
そして尻上がりなボディライン、目
の肥えたバイク乗りが思わず注目す
るマシンへと仕上げられている。
エンジンセッティングも歴代ベスト
トと言われるロードスターをカスタ
ムすると、当然ながらカフェ
レーサーといったストリートバイク
を指すことになる。ノーマルの
ままでも十分なバイクなので、元の
姿がわからなくなるほどカスタムさ
れたケースは極めて稀。だからこそ、
今回登場したこのロードスターには
目を見張るものがある。
倒立フォークとホイールを見れば
ロードスターと気付けるが、タンク
やカウルといったボディパーツも変
わっており、ポジションもセパレ
ートハンドルにバックステップを備
えて本格的なレーサースタイルを現
している。もちろんリヤサスペンシ
ョンやブレーキのパージオンアップと、
性能面にも抜かりはない。これを超
えるメニューのロードスターに出会
う機会はまずないだろう。